

## 平成24年度第4回宇都宮市民大学運営協議会議事録

1. 件名 「平成24年度第4回宇都宮市民大学運営協議会」
2. 日時 平成25年2月26日（火） 午前9時30分～
3. 場所 教育委員室（宇都宮市役所本庁舎13階）
4. 出席者 委員 9名（別紙参照）  
事務局 7名（生涯学習課）  
大竹課長，山中課長補佐，川俣係長，安納専任主査，藤田社会教育主事，  
味野和主事，田邊主事
5. 内容 別添資料参照（会議資料）

### ○ 会長挨拶

- ・ 宇都宮市民大学では、現在、来年度の講座に向けて、事務局と生涯学習コーディネーターが連携しながら準備を進めているところである。本日の協議会は、20周年記念講演会実施の関係から、本来4月に行われる市民大学運営協議会を前倒して行うものであり、今日の議題は、平成25年度のスタートラインに立つためのものである。
- ・ 文部科学省では、地域との共生・協働関係を発展させる大学の取り組みを支援し、地域と共生する大学づくりを促進している。宇都宮大学生涯学習教育研究センターでは、今後のあり方について、考え方を整理する中で、三つの問題点を挙げている。一つ目は、社会情勢の変化に伴い、生涯学習というキーワードによる公開講座の手法だけでは、大学が地域社会の中で役割を果たし得なくなったこと、二つ目は、地方分権の進展によって、地域社会の再構築、地域づくりが喫緊の社会的課題であり、こうした課題に対応する地域貢献が必要であること、三つ目は、これまでのように大学が地域に求められるままに一方的に応える地域連携から、地域社会に対して大学側から提案し、地域と協働で課題を解決していく考え方に移行する必要があるということである。
- ・ 政府の「高齢化社会対策大綱」にある、人生90年社会を達成するためには、解決しなければならない様々な課題がある。その課題を解決していく過程においては「共生・協働関係」が重要なキーワードとなる。その意味で、市民大学は重要な責務を担っていると考えている。

### ○ 議題

#### (1) 平成24年度事業報告について

竹澤委員 ⇒ 各講座の修了率が%で記されているが、前年度と比べてどうだったのか、あるいは、他の自治体の講座と比べてどうなのかなど、数字をどう捉えたらよいか、修了率の考え方についてお聞きしたい。

(事務局) … 全講座とも4分の3以上の出席で講座修了としており、修了率は、毎年、概ね80%に近い数字で推移している。修了率の捉え方としては、修了率の高いものは、それだけ魅力的な講座であると考えられる。一方、内容が「社会の要請」に応える講座については、趣味・教養的な講座に比べて、一定、修了率は下がってくるものと捉えている。例えば、子育て中の母親を対象としている子育て講座は、子どもの体調等により出席率が低くなる傾向があり、また、夜間講座については、対象が社会人であるので毎回出席することが難しいという状況も見られる。

石野会長 ⇒ 竹澤委員の質問にあった、他の自治体で行われている講座と市民大学を比較することについては、難しいことなのか。

(事務局) … 他の自治体の修了率等に関するデータは持っていない。

石野会長 ⇒ 実際に、非常に多くの場所で講座は実施されており、把握することは難しいと思うが、目標としているのは何%ぐらいなのか。3分の2で、66%ぐらいなのか。

(事務局) … 修了率の設定を4分の3以上の出席としているので、目標としては、4分の3以上は受講していただきたいが、4分の3の基準については、受講世代の状況もあるので統一的な基準値の設定は難しいと考えている。

石野会長 ⇒ 講座の内容が重要であり、数字だけでは計れないものもある。

## (2) 平成24年度収支見込みについて

花積委員 ⇒ 今後の決算の認定については、監事による監査を行うこと、また、会長による内容承認も行われることから、会長に一任し、各委員への説明は省略してもよいのではないかと。

(異議なしの声により承認)

石野会長 ⇒ 花積委員の提案のとおり、私の内容確認をもって了承とする。その他に何か御意見はあるか。

影山委員 ⇒ 事業費の中の報償費である講師謝金については基準があるのか。基本的な考え方を教えてほしい。

(事務局) … 市民大学には、講師謝金における基準があり、大学教授クラスは3万円、高度な専門的知識を有する方については2万円、その他、地域の活動団体の代表者は1.2万円などと定められている。今回、予算を超えた支出となったのは、予算編成時の段階では、講師は確定していない状況であること、また、多くの大学教授に講師を依頼することになったため、このような状況となった。

影山委員 ⇒ 講師に交通費は出ているのか。

(事務局) … 県外在住の講師には、交通費は別途支給している。

石野委員長 ⇒ 他に御意見はあるか。

岡田委員 ⇒ 講座によっては、5回、あるいは8回とあるが、その差により謝金額も変わることになる。今後、例えば、予算が減っていく状況であれば、どの講座も最大6回までとするような企画をお願いすることは可能なのか。

(事務局) … 岡田委員の御指摘のとおり、支出抑制の面からは、一定の回数に区切る手法もある一方で、いわゆる人気講座に関しては、より多くの受講者を受け入れられる見込みもあることから、講座回数を増やすことによる財源の確保も考えられる。両方をよく勘案しながら、事務局として調整していきたい。また、現在、講座数を最大10回までとして企画を募集し、実施している。実際は、9回が最も長い講座となっている。(公開講座・合同開講式を含めて) そうした状況やトレンドも踏まえながら、講座回数について検討していきたい。

### (3) 平成25年度事業計画(案)について

質疑なし。

### (4) 平成25年度収支予算(案)について

質疑なし。

### (5) その他

石野会長 ⇒ せっかくの機会なので、その他のことで、市民大学に関する御意見・御要望などあれば、発言をお願いしたい。

岡田委員 ⇒ 20周年記念講演会の実施要領では、実施主体が市民大学運営協議会とあるが、本協議会として特別に何か行うことはあるのか。

(事務局) … 20周年記念事業の進捗状況を補足すると、先の12月の協議会において、20周年記念事業の方向性について御承認をいただき、講師の倉本先生に面会し、講演の御内諾をいただいた。現在、講演会のポスター・チラシの校正段階に入っており、3月10日頃を目安に各関係機関および運営協議会の皆様へ配架の依頼を予定している。その他、自治会等への周知・回覧も予定しており、それらを踏まえて、一斉に申込が始まることになる。委員の皆様には、チラシ等の周知・配架について御協力をお願いするとともに、当日の出席を賜りたいと考えている。

小針委員 ⇒ 今年度、市民大学（後期）において、溝尾先生の公開講座を聴かせていただいたが、とても興味深く、自分にとってよい学びとなった。話を聴いた時点では、この学びが地域でどう役立つのかについて難しく感じたが、その後、自分の事業で、真岡市でまちづくりをしているNPO法人を訪問した際に、観光というものが「まちづくり」にどう役立っていくのか、地域の方がどう関わっていくのかについて、ずいぶん見えてきたと感じた。学びというのは、順番とかチャンスとか動機づけが大切だと思う。個人的にすごく感じているのは、市民大学で最高峰の学びを行うということは、地域づくりにおいて足元だけを見ているだけでは見えない部分を、体系的に見せてくれることであり、こうした学びをとおして質の高い地域リーダーが育つということである。市民大学における学びを大事にしてほしいと思っている。

(事務局) … 次回の開催については、8月を予定している。